

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和3年2月26日

関東運輸局

評価対象事業名 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

協議会名	①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	地方運輸局等における二次評価結果	備考		
							評価結果			
鹿沼市地域公共交通活性化協議会	関東自動車(株) リーバス口栗野線	リーバス口栗野線の運行	<p>【需要動向の把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の声を収集し(電話、メール、郵便等による)利用目的の把握に努めた(通年) <p>【効果的な利用促進策の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域別のバスガイドマップを作成し当該地域内全世帯(1,000部)に配布した(4月)。 ・高齢者向けのバスの乗り方教室を開催した(10月)。 	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	<p>目標 利用者数 33,507人</p> <p>平成28年度 31,496人</p> <p>平成29年度 30,139人</p> <p>平成30年度 33,507人</p> <p>令和元年度 32,502人</p> <p>令和2年度 24,949人 (目標達成率 74.5%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3月以降新型コロナウイルスの影響により目標が達成できなかった。 ・コロナ対策の実施により、利用者や乗務員の安全確保を優先的に運行していく。 ・高齢者や子どもたち向けのバスの乗り方教室は、地区別バスガイドなどを活用しながら引き続き実施していく。 ・路線の在り方については「地域公共交通計画」策定の中で検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施されている。 ・目標・効果達成状況の未達成の要因として、新型コロナウイルス感染症の影響であることが確認できる。 ・中止にはなったものの、「無料乗車券」の発行は、沿線住民の行動の変化が期待できることから評価できる。引き続き効果的な利用促進策を実施することが望ましい。 ・広域な交通ネットワークの構築には、都県にイニシアチブを取っていただくことが重要であることから、市町村と連携を図ったうえで、データを活用しながらモニターを行い、必要に応じて改善していくなど、最適なネットワークの構築に向けて継続的に議論がなされることを期待する。 	
							<p>第三者委員会における各委員からの意見</p> <p>令和2年度地域公共交通確保維持改善事業第三者評価委員会における委員による以下の助言は、今後の取組みを行う上で必要な観点であり、考慮されたい。</p> <p>○コロナによって日常の行動変容が起きているが、ポストコロナにおいても、人々の移動を戻していかなければ、街の活性化はない。移動する仕掛けが必要であり、地域戦略が必要。</p> <p>○地域公共交通会議の枠組みを最大限活用していただきたい。MaaSの発想、考え方でいろいろな交通手段や活動を繋げていくこと、あるいは、様々なデータをオープンにして共有し、課題を可視化することも公共交通会議で可能。</p> <p>○デジタル化はニーズを捉える重要なツールであり、マーケティングのツールとしても非常に重要。</p>			